

**2016年度(2017年3月期)
第1四半期決算説明会**

2016年7月27日

株式会社アドバンテスト

ご注意

◆会計基準の変更

当社は2015年度の有価証券報告書から、国際会計基準(IFRS)の任意適用を開始しました。

本プレゼンテーション資料に記載されている2015年度および2016年度の実績や見通しは、国際会計基準(IFRS)に基づいて作成しています。

米国会計基準(US GAAP)の数値を比較参考用に併載する場合は、該当する箇所にその旨注記しております。

◆将来の見通しに関する記述について

本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれています。

これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

ADVANTEST.

2016年度第1四半期 決算報告

取締役 兼 常務執行役員
中村 弘志

米国会計基準から 国際会計基準(IFRS)への移行について

ADVANTEST.

1. IFRSの適用時期

2014年4月1日を”移行日”として、2016年3月期の有価証券報告書よりIFRSを適用



ADVANTEST.

2016/7/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

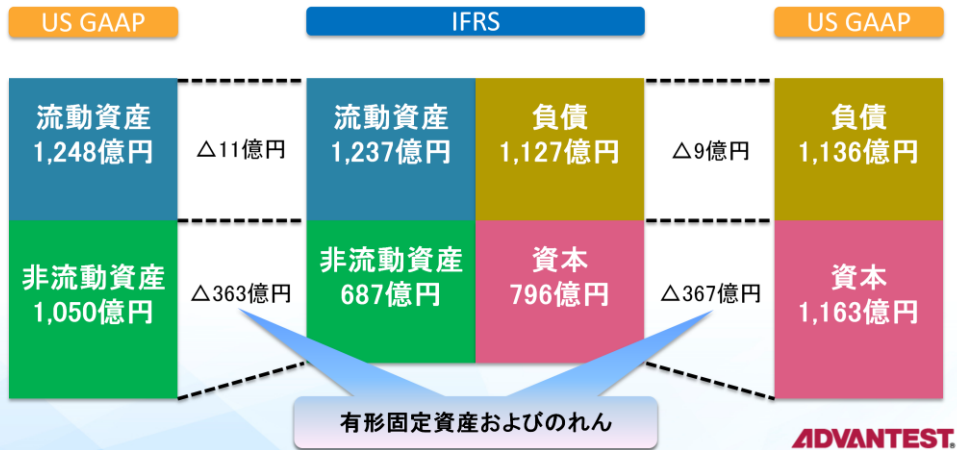
5

○ IFRSの適用

- 2016年4月にNY上場を廃止、
2016年3月期の有価証券報告書より米国会計基準からIFRSへ変更
- 2016年3月期は、米国会計基準とIFRS基準の短信を開示
- IFRSの開示要件により、移行日(2014年4月1日)、
2015年3月期、2016年3月期をIFRSベースで開示

2. IFRS適用による開始B/S(2014年4月1日)

- 総資産：米国基準:2,299億円 → IFRS:1,923億円
- 株主資本：米国基準:1,163億円 → IFRS:796億円



2016/7/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

6

○ IFRS適用による数字の変動

- 2014年4月1日のIFRS初度適用により、非流動資産と資本の部が約360億円変動

決算ハイライト

ADVANTEST.

業績概要

(億円)				
	2015年度 1Q実績	2016年度 1Q実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
受注高	440	438	-2	-0.6%
売上高	402	407	+5	+1.3%
売上総利益	221	253	+31	+14.2%
売上総利益率	55.1%	62.2%	+7.1pts	
営業利益	25	57	+33	+131.8%
営業利益率	6.2%	14.1%	+7.9pts	
税引前四半期利益	25	62	+36	+144.2%
四半期利益	18	50	+32	+183.5%
四半期利益率	4.4%	12.2%	+7.8pts	
受注残	480	365	-114	-23.8%
平均為替レート	1米ドル	120円	111円	9円 円高
	1ユーロ	131円	124円	7円 円高

ADVANTEST.

2016/7/27

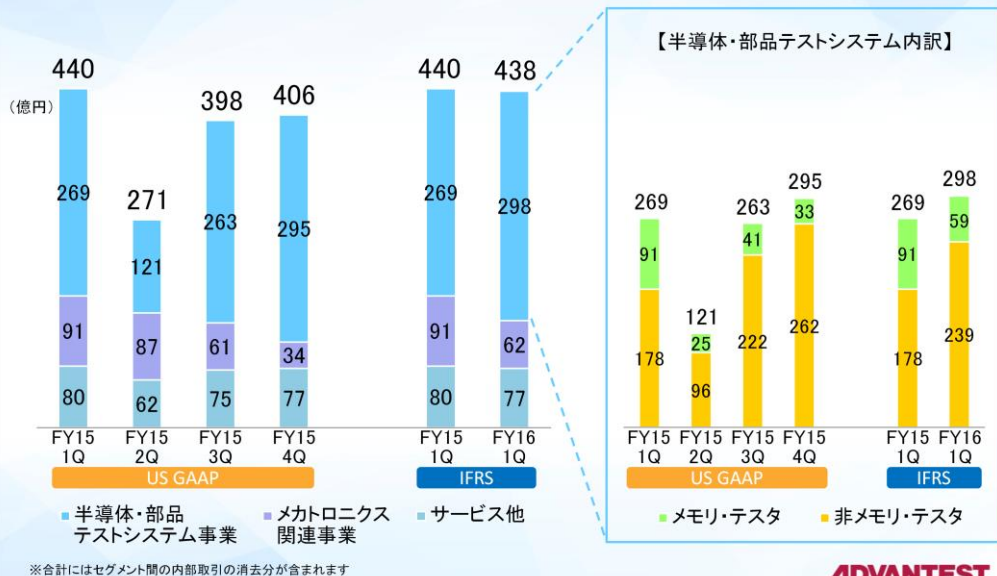
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

8

○ 2016年度第1四半期の業績概要

- 受注高 438億円 前年同期比 0.6%減
 - 売上高 407億円 前年同期比 1.3%増
 - 売上総利益 253億円 前年同期比 14.2%増
 - 営業利益 57億円 前年同期比 約2.3倍
 - 税引前四半期利益 62億円 前年同期比 約2.4倍
 - 四半期利益 50億円 前年同期比 約2.8倍
- 前年同期に比べ、当社にとっては為替が逆風方向へ進んだが、ローエンド／ミッドレンジ・スマートフォン関連の半導体テスト需要が想定以上に強く、前年同期並みの受注高、売上高を獲得
 - 売上高は同水準ながら、製品ミックスの好転で、前年同期を大きく上回る利益を収めた

四半期受注高 事業セグメント別



ADVANTEST.

2016/7/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

9

○ 2016年度第1四半期のセグメント別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前年同期比 11%増 298億円
うち非メモリ・テスト 239億円
メモリ・テスト 59億円
- ローエンド／ミッドレンジ・スマートフォン関連の半導体生産が活況だったことで、非メモリ・テストの受注が伸びた
- 前年同期は大規模なメモリ投資が行われていたこともあり、メモリ・テスト受注は前年同期の水準を下回ったが、6月末から伸びてきた

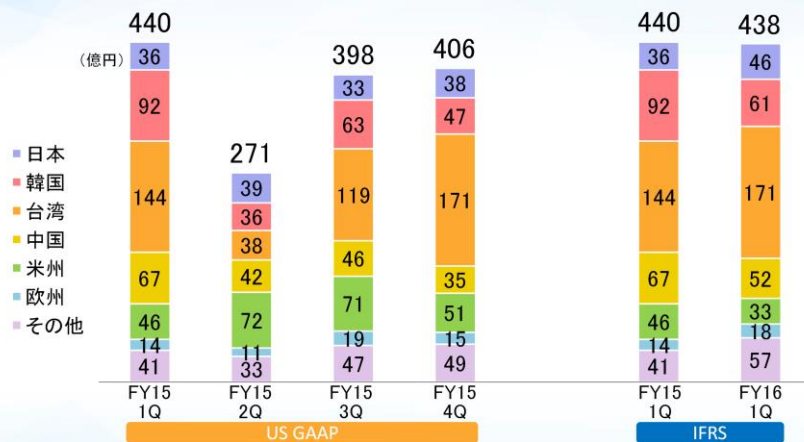
○ メカトロニクス関連事業

- 前年同期比 32%減 62億円
- メモリ・テスト需要と連動性の強いデバイス・インタフェース事業の受注が減少

○ サービス他

- 前年同期比 3%減 77億円

四半期受注高 地域(出荷先)別



ADVANTEST.

2016/7/27

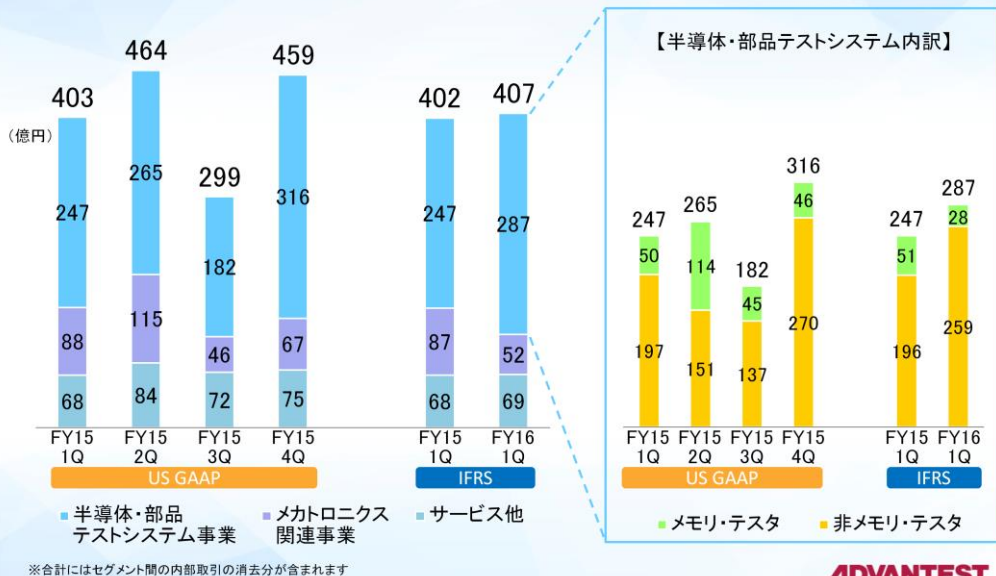
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

10

○ 2016年度第1四半期の地域別受注

- 前年同期比で受注高の変動が大きかった地域
- 台湾
スマートフォン関連の半導体テスト需要が堅調で非メモリ・テスト受注が伸びる
- 韓国、中国
前年同期のメモリ投資が活況だった反動での減少

四半期売上高 事業セグメント別



ADVANTEST.

2016/7/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

11

○ 2016年度第1四半期のセグメント別売上高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前年同期比 16%増 287億円
うち非メモリ・テスト 259億円
メモリ・テスト 28億円
- 受注同様、ローエンド／ミッドレンジ・スマートフォン関連の需要を背景に、非メモリ・テストの販売堅調
- メモリ・テストは、昨四半期まで受注が伸び悩んでいたことで販売振るわず

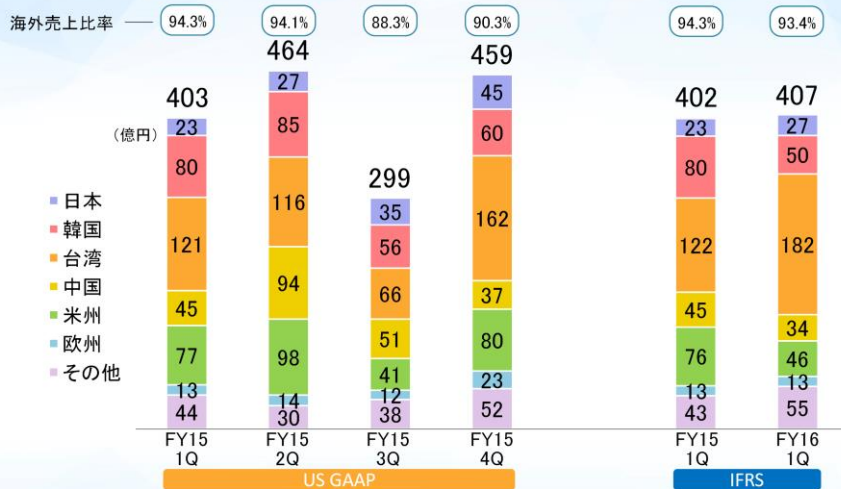
○ メカトロニクス関連事業

- 前年同期比 41%減 52億円
- DRAM市況が軟調だったことで主力のデバイス・インタフェース事業の販売が伸びず

○ サービス他

- 前年同期横ばい 69億円

四半期売上高 地域(出荷先)別



ADVANTEST.

2016/7/27

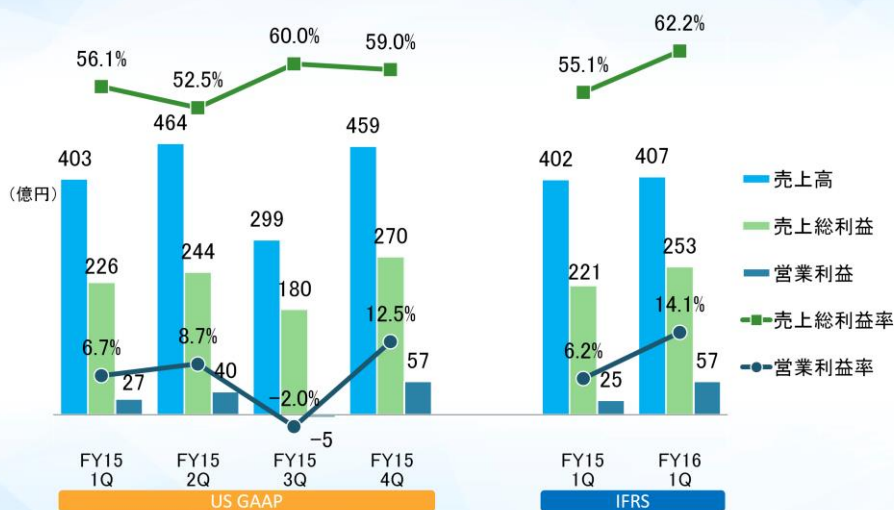
All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

12

○ 2016年度第1四半期の地域別売上高

- 前年同期比で売上高の変動が大きかった地域
- 台湾
受注同様、スマートフォン関連の需要が堅調で
非メモリ・テスト販売が伸び、前年同期比で約50%の売上増
- 韓国、米州
メモリ・テストやパソコン関連の販売が落ち込む
- これらの結果、海外売上比率 93.4%

売上高/売上総利益/営業利益



ADVANTEST.

2016/7/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

13

○ 2016年度第1四半期の営業利益

- 売上総利益
 前年同期比 31億円増 253億円
 売上高は同レベルだが、売上総利益は増加
 採算性の良い非メモリ・テストの売上構成比が上昇
- 売上総利益率
 前年同期比 7.1ポイント改善 62.2%
- 販売費および一般管理費等
 前年同期並み 196億円
- 営業利益
 前年同期比 33億円増 57億円
- 営業利益率
 前年同期比 7.9ポイント改善 14.1%

研究開発費/設備投資/減価償却費



ADVANTEST.

2016/7/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

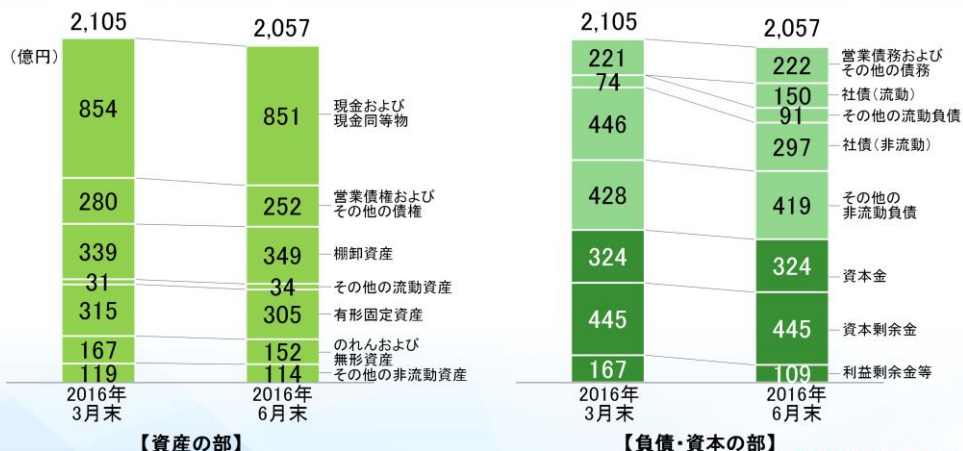
14

○ 2016年度第1四半期の研究開発費等

- 研究開発費 82億円
- 設備投資 13億円
- 減価償却費 10億円

バランス・シート

親会社の所有者に 帰属する持分	936	878
親会社所有者 帰属持分比率	44.5%	42.7%



ADVANTEST.

○ 2016年6月末時点のバランス・シート

- ・ バランス・シート構成に大きな変化無し
- ・ 親会社の所有者に帰属する持分 878億円
- ・ 親会社所有者帰属持分比率
前年度末比 1.8ポイント減 42.7%

2016年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長

黒江 真一郎

2016年度業績予想

	※US GAAP		(億円)		
	2015年度 実績	2016年度 予想(4月)	2016年度 予想(7月)	前年度比 増減額	前年度比 増減率
受注高	1,515	1,580	1,580	+65	+4.3%
受注残	335	360	355	+20	+6.0%
売上高	1,621	1,560	1,560	-61	-3.8%
半導体・部品テストシステム事業	1,008	940	967	-41	-4.0%
メカトロニクス関連事業	315	300	276	-39	-12.3%
サービス他	299	320	317	+18	+5.9%
営業利益	126	100	110	-16	-12.7%
営業利益率	7.8%	6.4%	7.1%	-0.6pts	
税引前当期利益	118	100	115	-3	-2.3%
当期利益	67	75	85	+18	+27.0%
当期利益率	4.1%	4.8%	5.4%	+1.3pts	

✓ FY16 2Q以降の為替前提: 1米ドル: 100円、1ユーロ: 110円へそれぞれ見直し
(前年度実績: 1米ドル: 121円、1ユーロ: 133円 4月時点予想の前提: 1米ドル: 110円、1ユーロ: 120円)

ADVANTEST.

2016/7/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

17

○ まず、2016年度の業績予想について

- 昨年秋からローエンドあるいはミッドレンジ・スマートフォン関連の半導体テスト需要が順調で、この1Qも力強い水準で推移し、当社の業績を牽引しました。
- 現状の為替レートを踏まえ、2Q以降の前提を1米ドル=100円、1ユーロ=110円とし、業績予想を修正してあります。
- NAND向け、SSD向けのビジネスが好調で、約60億円程度の業績上積みが今後期待できます。
ただし1ドル=100円の場合、4月時点の予想比で、今後9か月に同程度の減収影響も生じる見込みです。
- それらのビジネス環境を踏まえ2016年度の業績予想を、
 - 受注高 1,580億円
 - 売上高 1,560億円
 - 営業利益 110億円
 - 当期利益 85億円

とします。

受注高と売上高の予想に変更はありません。
 利益予想については、為替の影響とIFRS移行に伴う償却費等の減少によりそれぞれ増額しています。

- それでは、現時点での各事業の今後の見通しについて説明します。

各セグメントの今後の見通し

■ 半導体・部品テストシステム

非メモリ・テスト事業

- ✓ 1Q進捗とスマートフォン市場の動向から受注は一旦減少も、通期では堅調な展開を予想
- ✓ VR(バーチャル・リアリティ)や、IoT、高速ネットワーク、ゲーム機、自動車関連等、成長期待領域で当社の事業基盤の強化が進展
- ✓ 下期以降の有機ELドライバIC、液晶ドライバICの需要増にも期待
- ✓ RF向けやミクストシグナル向け新モジュールの投入が奏功し、当社テストの競争力は着々と向上中

メモリ・テスト事業

- ✓ 3D NAND需要が大きく伸びようとする中、NANDフラッシュ向けのビジネスに大きなチャンス

ADVANTEST.

○ 半導体・部品テストシステム事業の見通しについて

- まず非メモリ・テストについて。
- スマートフォンの生産拡大はローエンド／ミッドレンジ・スマートフォンを中心に底堅く続くものの、1Qのテスト需要が想定以上に伸びたことから、スマートフォン関連のテスト受注は2Q以降、減少傾向と考えています。
- 一方で、VR(バーチャル・リアリティ)や、IoT、高速通信ネットワーク、ゲーム機、自動車関連といった、今後成長を期待されている事業領域で、事業基盤の強化を進めています。
- また下期には有機ELパネルの立ち上げ、液晶パネルの増産など、ディスプレイに関連したテスト需要の伸びを期待しています。
- これらを踏まえ、スマートフォン関連のテスト需要が2Q以降減少しても、非メモリ・テスト事業は今後の堅調な展開を予想しています。
- また今後のメモリ・テスト市場への見方ですが、ミッドレンジ以上のスマートフォンのLPDDR4採用・拡大で、さらなるDRAMテスト需要を期待できる環境です。
- 加えて3D NANDが大きく伸びようとする中で、NANDフラッシュ向けのビジネスに期待しています。

各セグメントの今後の見通し

NANDフラッシュメモリ用テストの市場変化

最終機器の需要 → 半導体側の動き → テスタへの影響

● データサーバー性能向上

パフォーマンス追求のため、オールフラッシュストレージ化が加速

● スマートフォン性能向上

動画データや連写データ格納対応力向上のため、ストレージ性能向上ニーズが伸長

● 大容量化

メモリセル構造の3D化で容量拡張を実現

● 高速R/W実現

メモリセルへの書き込み／読み出し速度向上

● インタフェース高速化

高速I/F規格(UFS、PCIe)の採用

① 大容量化に伴う テストタイムの伸び

② 高速R/Wテストが 可能なテストが必要に

③ UFSやPCIe等への プロトコル試験工程 (システムレベル・テスト) が追加になる

ADVANTEST.

2016/7/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

19

○ NANDフラッシュメモリ用テストの市場の変化について

- NANDフラッシュメモリのテスト市場では、デバイスの技術の進化に伴い、試験手法に変化が起きています。
- まず3D NANDですが、大容量品化に伴い、テストタイムが伸びること、3D NANDの新たな量産ラインの拡張が、NANDフラッシュ用のテスト需要を支えてくれる要素になり、このビジネス・チャンスを活かしていきたいと思っています。
- もうひとつ、プロトコル型NAND対応も必要となります。今後、量産されるハイエンドNANDではインタフェースの高速化が進み、信号のやりとりもプロトコルベースとなります。そうしたUFS等の高速プロトコルを採用したNAND市場を獲得します。
- これらNANDのテスト技術の変化に対して、技術的な差別化点を明確に打ち出し、しっかりとシェアを確保し、成長していきます。

各セグメントの今後の見通し

■ メカトロニクス関連

- ✓ 円高の影響を踏まえ、通期の売上見通しを修正
- ✓ 顧客の動向から、デバイス・インタフェース事業や
ナノテクノロジー事業は下期の拡大を見込む

■ サービス他

- ✓ SSDテストは事業拡大に向けて粛々と進捗、
2Qより実績拡大を予想
- ✓ その結果、前年度並みの売上を確保できそうな見通し

ADVANTEST.

○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今後のポイント

- メカトロニクス事業です。
- メカトロニクス関連については、期首から前年度比減収と見込んでいましたが、想定以上の円高の影響を踏まえ、通期の売上見通しを下方修正します。
- しかし、デバイス・インタフェースの事業がメモリ・テスト需要に牽引され、今後持ち直した場合、メカトロニクス事業全体の売上高は、下期に向かって回復していくと見込んでいます。
- また、ナノテクノロジー事業についても、手元の商談から、やはり下期に向かって伸びていく方向で見えています。
- サービス他事業です。
- サービス、新規事業部門においても為替の影響を受けています。ただし、期待しているSSDテストが2Q以降、当初予想よりも拡大する見通しで、セグメント全体としては前年度並みの数字を予想しています。

ADVANTEST EXPO 2016

最先端を

未来が

はかる  ミエル

We Guarantee the Future

ADVANTEST® EXPO 2016

10月13日(木) 13:00~17:00

10月14日(金) 10:00~17:00

10月15日(土) 10:00~17:00

於:秋葉原UDX

ご来場をお待ちいたします

ADVANTEST.

2016/7/27

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

21

○ 最後に

- 前回も触れましたが、今年2016年の10月に、当社の個展を秋葉原で開催します。
- 今までの個展は製品の紹介が主でしたが、今回は少し趣きを変えたものになります。
これまで当社が培ってきた計測技術がどのように未来の社会を支えていくのかをご紹介します展示を用意します。
- 詳細は8月に入ってからウェブサイト上でお知らせします。
ぜひ足をお運びください。